

# RBA 情報誌 宮城県版

## ～ご本人のためのもの忘れ総合相談～

発行年月日  
2018.3.28

### おれんじドア

～ご本人のためのもの忘れ総合相談窓口～

「認知症の診断を受けた時は、絶望と不安で押しつぶされそうでした」と語る宮城県仙台市にお住いの丹野智文さん（44 歳）。現在、もの忘れの不安を抱える方や認知症と診断されたご本人のための相談窓口「おれんじドア」代表を務めています。丹野さんは「認知症の診断を受けて、これから先どうなるだろうと不安でなかったとき、私を前向きにさせてくれたのは、私より先に診断を受け、その不安を乗り越えてきた認知症当事者の方々との出会いでした。このおれんじドアにはもの忘れなどで不安を抱える方や認知症と診断されたご本人に、ぜひ足を運んで頂きたいと思います。」と述べています。診断直後の絶望と不安の渦中にいた丹野さんがどのようにして笑顔を取り戻すことができたのか、丹野さんの手記とともにおれんじドアについてご紹介します。



### 絶望「早期発見＝早期絶望」

丹野さんは、39 歳の頃、大手の自動車販売店の営業マンとして働いていましたが、お客様の名前だけでなく顔を忘れてしまったり間違えてしまったりすることが多くなり、新しい仕

事の内容などを憶えるのが苦痛になってきました。最初の頃はノートに「佐藤さん TEL」と書いてあればどこの佐藤さんにどのような内容で電話するのかわかっておりましたが、この頃から「佐藤さん TEL」と書いてあってもどこの佐藤さんに何の事で電話するのか忘れてしまいました。お客様が来店すると他のスタッフにお客様が来たから行ってきな、と対応させると、きょとんとした顔で丹野さんのお客様でしたとスタッフが駆け寄ってきたりし、そこにお客さん待っているから挨拶しなさいと指示されても、どの人が自分のお客様なのかわからなかったりするのが多くなりました。

次第にそういった失敗が増えていき、不安を抱えてクリニックを受診して精密検査を受け、最終的には大学病院の検査入院を経て若年性アルツハイマー病の診断を受けました。

当時、下の子はまだ小学生でした。子どもたちには迷惑や心配をかけたくないと思って必死で情報を集めました。そして「2 年で寝たきり、10 年で亡くなる」というインターネットの情報を目にし、愕然としました。区役所にも行ってみましたが、「40 歳未満は介護保険が使えないから（支援制度は）なにもありません」と言われ、「そうか年寄りになる病気だからしょうがない」と自分に言い聞かせ区役所を出ました。まさに「早期絶望」でした。今から振り返ってみると、その時の自分はいわゆる「うつ」になっていたのだと思います。自分が独身だったら、仕事を辞めて家に引きこもっていたでし

よう。でも、残される家族のことが心配で、自分で調べて認知症の人と家族の会に行きました。これが丹野さんのこれからを広げるきっかけとなり、多くの当事者との出会いや翼の会での活動から「認知症とともに生きる」ことに希望を見出し、様々な活動を精力的に行っていくことにつながっていきます。

## 当事者との出会いが自分を取り戻せた

仙台の家族の会に、同じ若年性認知症の広島の方々が来てくれました。とても元気でパワフル、やさしく気配りの出来る人でした。本当にこの人も病気なのかなと思いました。話をしてみると大変つらい思いをしてずっと引きこもっていたことを聞きました。病気になった時の事や、つらかった時期、どのようにして立ち直ったかなどを聞きすべてを話してくれました。私もこの人のように元気で人に勇気を与えるような人になりたいと思っていました。しかし、その時にはどうしたらよいかわからずにいました。当事者の人との出会いは「自分だけじゃない」という安心感も与えてくれました。

## 自分も笑顔を伝えたい「おれんじドア」の発足

「私もこの人のように元気で人に勇気を与えるような人になりたい」丹野さんはその想いを「おれんじドア」として実現します。丹野さんが発起人となり平成 27 年 3 月に実行委員会を発足。「宮城の認知症とともに考える会」世話人有志と、趣旨に賛同する数多くの人たちが参加し平成 27 年 5 月より開催しています。

「おれんじドア」は現在、毎月第 4 土曜日 14 時から 16 時、東北福祉大学ステーションキャンパス 3 階にある東北福祉大前駅に直結した「ステーションカフェ」で相談会を開いています。ここでは診断名や発症年齢などは聞きません。名前もお呼びする時に困るから聞く程度です。診断を受けていなくても、不安がある方ならば誰でも参加していただけます。ここは当事者の居場所ではなく、来ていただいた方が安心して元気を取り戻して次の居場所につながるための「入り口＝ドア」として、できるだけハードルを低くして、誰でも気軽に参加できるようにしています。

## 丹野さんからのメッセージ

### 【当事者へ】

テレビやインターネットを見ていると良い情報がなく早期絶望だと思ってしまいます。

しかし私は当事者と会って話をすることでそれが間違いだと気づきました。「認知症＝終わり」ではありません。そしてすぐに何も出来なくなるわけではないのです。今、何が出来るのか？何をしたいのか？よく考えてみて下さい。まだまだ出来ることはたくさんあります。

**おれんじドア**  
～ご本人のためのもの忘れ総合相談窓口～

日 時：毎月第四土曜日 14 時から 16 時  
※ご参加の際は日程変更がないかご確認ください。

会 場：東北福祉大学 ステーションキャンパス 3 階  
ステーションカフェ内

お問合せ先：070-5477-0718  
メール：orangedoorsendai@gmail.com

まずは笑顔で1日1日を過ごしましょう。

## 【家族へ】

失敗しても怒らないで下さい。

失敗したことは本人が一番わかっている心  
を痛めています。失敗しても何度もお願いして  
下さい。出来る時もあるかもしれません。役割  
を与える事で自信が生まれます。本人は家族に  
だけは迷惑をかけたくないと思っています。そ  
して困っている時には助けたいとも思ってい  
ます。家族の人でも一人でかかえこまないでた  
くさんの人にサポートしてもらって下さい。同じ  
境遇の人と出会い話をすることで救われるこ  
ともあります。失敗しても怒られない環境が当  
事者には必要だと感じます。



(写真左上) 相談に来た方と話をする丹野さん

(写真右上) おれんじドア会場のステーションカフェ

(写真下) おれんじドア実行委員の皆さん

診断されたご本人の、  
その不安を一緒に乗り越えられたら・・・

# おれんじドア

—ご本人のためのもの忘れ総合相談窓口—

認知症の診断を受けて、これから、どうなるだろうと  
不安で仕方なかったとき、私事相談室に訪ねてくれた  
のは、もより先に診断を受け、その不安を乗り越えてき  
た方はお事柄の力へと出会っていました。この「おれんじ  
ドア」には、もの忘れなどで不安を抱える方や認知症と  
診断されたご本人に、ぜひ足を運んでいただきたいと思います。  
います。 (おれんじドア実行委員会代表 丹野 智文)

日時  
毎月第四週土曜日  
14時～16時

会場  
東北福祉大学  
ステーションキャンパス3F  
「ステーションカフェ」

※ご参加の際は、日程変更がないか  
お問合せください。

〒981-8523 宮城県仙台市青葉区国府1丁目10番1号  
東北福祉大学 国府キャンパス3F 3F 303号室 (国府キャンパス3F 303号室)

【お問い合わせ先】 070-5477-0718 (月～金 10時～15時)  
✉ orangedoor.sendai@gmail.com

【主 催】 おれんじドア実行委員会 代表 丹野 智文

【後 援】 宮城の認知症者とともに生きる会 (宮城の認知症ケアを推進する会)  
認知症の人と家族の会宮城県支部  
認知症介護研究研究協会の仙台センター 東北福祉大学  
仙台市 宮城県

## 【偏見について】

偏見は当事者や家族の心にあると思います。  
周りから何を言われるのだろう、どのように思  
われるだろうと思ってしまうからです。一步踏  
み出す勇気をもって下さい。きっと多くの方が  
支えサポートしてくれるはずです。

## 【介護職のみなさんへ】

介護をしていると思わずにサポーターやパ  
ートナーだと思って接して下さい。

介護だと思つとすべてやってあげなければ  
と思つてやれることも奪つてしまい出来なく  
してしまふと思ひます。やつてあげた方が時間  
も早く楽かもしれません。しかし、すべてをや  
つてもらふことは本人は望んでいません。ぜひ、  
当事者と一緒に楽しんで下さい。

みなさんの笑顔を当事者も望んでいます。



## いずみの杜診療所 RBA相談室 地域連携室内（若年性RBA相談部門）

若年性認知症の本人、家族等からの相談や、支援関係者、雇用企業等からの各種相談に応じるため、宮城県からの委託を受けて、医療法人社団清山会が運営する「いずみの杜診療所地域連携室」には、若年性認知症 RBA 相談部門（以下、RBA 相談室）を開設しています。

なお、RBA は“Rights-Based Approach（権利に基づくアプローチ）”のことで、90年代後半から国連の開発分野で重視されるようになり貧困や障害の分野に応用されてきました。06年に国連で採択された障害者権利条約は一つの成果であり、日本は07年に批准し14年に承認されています。



いずみの杜診療所

## 若年性の認知症に不安を抱える方の相談窓口

認知症疾患医療センターである、いずみの杜診療所では、既存の認知症初期集中支援に携わる部門とは別に、RBA 相談室を設けて専任のコーディネーターを設置しています。

コーディネーターは、ご本人やご家族などの相談に対して、診療所のサポート医や精神保健福祉士、社会福祉士などと連携しながら対応します。

また、一般企業や、若年性認知症と診断された方を雇用する企業の担当者、若年性認知症支援に関わる雇用対策・障害福祉・高齢者福祉等

の関係者などとも連携を図ります。

～社会とつながりながら、主体的に生きる～

## RBA相談室 若年性認知症RBA相談部門

### いずみの杜診療所 地域連携室

T E L : 022-346-7068

F A X : 022-772-9802

メー ル : izumi-renkei@izuminomori.jp

受付時間：（平日） 9時から16時まで

困ったことや相談ごとなど、どんなことでもお電話ください。

○認知症という障害の理解

○障害への配慮や向き合い方

○さまざまな制度の活用方法

（就労・経済面など）

○仲間との出会いや活動の場づくり など



賢治画

## RBA相談室の実施方針

RBA相談室では、以下の5つの柱を実施方針とします。

1. 自立と共生の権利に基づくアプローチ
2. ピアサポートの重視
3. 合理的配慮の啓蒙と普及
4. 本人の願いや望みを実現する関わり
5. 本人との対話を重視した家族と職場、そして地域の支援



RBA に基礎を置くのは、その多くが働き盛りといわれる世代で、また育児中や親の介護をしなければいけない状況下であり、そして本人が主たる生計者である場合も多いなかで、若年性認知症がまさにその人の権利を直撃するからです。さらに若年性認知症では、失語や視空間失認等の高次脳機能障害やパーキンソン症候等の神経症状が高齢発症に比べてより強く現れることが多く、障害分野で培われた経験と福祉が、そしてその集大成である RBA が、ほぼ同じように通用するからです。

## 若年性認知症コーディネーターの役割

○若年性認知症の本人のニーズにあった関係機関やサービス担当者との“調整役”となります。

○必要に応じて、職場や福祉サービス事業者などと連携し、就労継続や居場所づくりに働きかけるなど、本人の権利に基づき、自分らしい生活を継続できるよう、総合的なコーディネートを行います。

## RBA相談室の主な取組み

### 若年生認知症圏域意見交換会の開催

当事者同士のネットワークや安心して過ごせる居場所づくりを推進するため、若年性認知症の人や家族を集めて意見交換会や交流会を開催します。(県内数ヶ所)

### 自立支援研修会の開催

若年性認知症支援に関わる関係者に対して、その特性に応じた支援に必要な知識・技術を習得するための研修を行います。

### 若年性認知症理解促進・普及啓発

若年性認知症の理解促進を図るために、一般住民や企業を対象としたセミナーや出前講座を行ったり、パンフレット等を作成・配布します。



社会とつながりながら、主体的に生きる  
若年性の認知症に不安を抱える方の  
**相談窓口**



賢治画

いずみの杜診療所 地域連携室  
**RBA相談室（若年性認知症RBA相談部門）**  
**☎ 022-346-7068**

**無料  
相談**

※いずみの杜診療所が宮城県より若年性認知症施策総合推進事業の委託を受けて実施します。

**受付時間**

**（平日） 9時から16時まで**

**対象者**

**ご本人・ご家族**

一般企業・若年性認知症と診断された人を雇用する企業  
若年性認知症支援に関わる雇用対策・障害福祉・高齢者福祉等の関係者 など

**認知症疾患医療センター**の中に  
**RBA相談室**を設置しています。  
専任の **コーディネーター** と  
診療所の **認知症サポート医** や  
精神保健福祉士、社会福祉士などが  
対応します。

**例えば**

- ⊕ 認知症という障害の理解
- ⊕ 障害への配慮や向き合い方
- ⊕ さまざまな制度の活用方法
- ⊕ 仲間との出会いや活躍の場づくり など



RBA(Rights-Based Approach) は、「国際的な人権基準をもとに、認知症の人が自らの権利を知り、要求することをエンパワーし、権利を尊重し、守る責任のある責務履行者、例えば個人や機関、企業、専門職の説明責任と履行能力を高めるアプローチ」と定義されます。（林真由美）

※林真由美さんはエディンバラ大学の「認知症の体験研究エディンバラセンター ECRD」の交流研究員です。

認知症疾患医療センター  
いずみの杜診療所  
地域連携室  
**RBA相談室**

〒981-3111 仙台市泉区松森字下町8-1  
**022-346-7068**  
(FAX) 022-772-9802  
✉ izumi-renkei@izuminomori.jp



診断されたご本人の、  
その不安を一緒に乗り越えられたら・・・

# おれんじドア

—ご本人のためのもの忘れ総合相談窓口—



認知症の診断を受けて、これから先、どうなるだろうと不安で仕方がなかったとき、私を前向きにさせてくれたのは、私より先に診断を受け、その不安を乗り越えてきた認知症当事者の方々との出会いでした。この「おれんじドア」には、もの忘れなどで不安を抱える方や認知症と診断されたご本人に、ぜひ足を運んでいただきたいと思います。（おれんじドア実行委員会代表 丹野智文）

## 日時

毎月第四週土曜日  
14時～16時

※ご参加の際は、日程変更等がないか  
お問合せください。

## 会場

東北福祉大学  
ステーションキャンパス3F  
「ステーションカフェ」

〒981-8523 宮城県仙台市青葉区国見1丁目19番1号  
東北福祉大駅前、駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

【お問合わせ先】 070-5477-0718（月～金 10時～15時）

✉ [orangedoorsendai@gmail.com](mailto:orangedoorsendai@gmail.com)

【主 催】 おれんじドア実行委員会 代表 丹野 智文

【後 援】 宮城の認知症をともに考える会（旧称 宮城の認知症ケアを考える会）  
認知症の人と家族の会宮城県支部  
認知症介護研究研修仙台センター 東北福祉大学  
仙台市 宮城県

## **いずみの杜診療所 地域連携室**

平成 30 年 3 月 28 日 発行

編 集 R B A 相談室（若年性認知症 R B A 相談部門）  
発行者 医療法人社団清山会  
住 所 仙台市泉区松森字下町 8 番地の 1  
電 話 0 2 2 - 7 7 1 - 1 8 5 2  
U R L <http://izuminomori.jp/>